

「食品ロス」とは



令和元年度組成分析調査よりある地域で約140世帯の4日分のごみから出てきた手つかずの食品です。

手つかずのままですてられる食品や食べ残しといった、むだにすてられる食品を「食品ロス」といいます。

大阪市内では、2019年で年間おおよそ4万トン。これは毎日、ごみ収集車70台分もの食料をむだにすてていることになります。市民1人あたりにすると、年間でごみ袋（45リットル）2袋分にも相当します。

みなさんの給食から食べ残しが出れば、「食品ロス」になるのです。「食品ロス」をなくすためのリデュースの取り組みの一つとして、生ごみの3きりがあります。

使いきり

食材はむだなく使いきりましょう



食材を
チェック！
必要な分だけ買う！
余ったおかずで別メニュー！

食べきり

料理は残さず食べきりましょう



作りすぎない！
コマメに
保存！
注文しすぎに注意！

水きり

ごみを出すときは水気をきりましょう



洗う前に切り落とす！
ぬらさない
水きりをする
かわかす

上の写真は手をつけずに、そのままですてられた食品なんです。



大阪市の取り組み
急な買い物時も含めてレジ袋を使用することのないよう、エコバッグをいつでも持ち歩く「大阪エコバッグ運動」を推進しています。

プラスチックごみが大問題

大阪市の家庭ごみにふくまれる「プラスチック類」の量は、2019年度で年間おおよそ6万7千トン（1日あたりごみ収集車115台分）です。

今、世界中で、使いすてのプラスチックごみが問題になっているのを知っていますか？

たとえば、だれかがすてたプラスチックの袋は、一度海へ流れこむと、海にただようごみとなります。そのごみを見つけたウミガメが、好物のクラゲとまちがえて食べてしまい、中にはそのままエサを食べられなくなって死んでしまうなど、海の生き物に悪い影響をおよぼすことがあります。

そこで、2019年6月、海を今よりもプラスチックごみで汚さないように、G20大阪サミットという世界20か国が参加する会議で話し合いをし、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」という、同じ考え方を持って、みんなでこの問題に取り組んでいくことを決めました。

大阪市も、2019年1月に大阪府といっしょに「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」を行い、取り組みを進めています。

レジ袋やストローのように、わたしたちの生活を便利にしてくれるプラスチック製品は、なるべく使わないように心がけたり、「まぜればごみ、分ければ資源」という意識をもって、ごみの分別に取り組んだりすることが大切です。



キンクロハジロ



キンクロハジロの体の中から出てきたマイクロプラスチックごみを大きくした写真(じっさいの大きさ 直径1.5mm)

2 リユース

ごみの中には、びんなどのように、くりかえし何度も利用できるものがあります。このようなものを何度も利用することがリユースです。



まだ使える物で自分がいらなくなった物は、ほしい人にゆずるようにする。
容器がむだにならないように洗剤・シャンプーなどを買うときはつめかえられるものを選ぶ。これは、リデュースにもなります。

3 リサイクル

アルミかんや古新聞などを、回収して加工することで、新しい製品を作ることをリサイクルといいます。

ごみを正しく分別して出すと、ごみがへるだけではなく、エネルギーや資源のせつやくにもなります。



再利用できるごみや資源ごみなどを、正しく分別して出す。
スーパーマーケットの食品トレイなどの回収に協力する。
トイレトペーパーや文房具などを買うときはできるだけ再生品を選ぶ。

マイクロプラスチック

海や川に捨てられたプラスチックごみが、太陽の熱や紫外線などはたらきで割れてくだけで5mmよりも小さくなったもの

1リットルの紙パック30まいで約5このトイレトペーパーにリサイクルできます！



グリーンマーク

木を大切にするために、再生紙を使っているノートなどにつけているマークです。



グリーンマーク

